

平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校の平成30年度全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。

また、今年度は、6年生において、3年に1度の理科調査（「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題）も実施されました。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（若木）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	5年時	6年時		5年時	6年時		6年時
		A	B		A	B	
H26 入学 現5年	67.9 (1.02)			70.4 (1.00)			
H25 入学 現6年	59.2 (0.96)	77 (1.08)	76 (1.4)	66.7 (1.02)	72 (1.14)	66 (1.29)	70 (1.15)
H30 正答率の全国比		(1.09)	(1.39)		(1.13)	(1.28)	(1.16)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

第6学年の全国学習状況調査の結果では、国語科、算数科のA問題、B問題、理科の全ての平均正答率で県平均や全国平均を上回っていた。特に、国語B問題は全国比1.39、算数B問題は全国比1.28と高い数値を示しており、既習の知識をもとに問題解決を図る活用力が高まっていると言える。無答率は極めて低く、記述式問題においても解答率が高かった。日頃の学習において、一人学びの中で自分の考えを書く活動が生かされていると言える。

設問毎に見た場合、課題が見られた問題は、国語A「主語と述語の関係に注意して正しく書く」。国語B「話し手の意図を捉え、自分の意見と比べながら考えをまとめる」。算数A「円周率をもとめる式」、「直径の長さ」と円周の長さの関係」、「百分率を求める」。理科「ろ過の適切な操作方法」などであった。

5年生の佐賀県学習状況調査の結果は、国語科、算数科とも県の平均正答率とほぼ同じであった。観点別に見た場合、国語科では、「語句に関する知識・理解・技能」、算数科では、「数量関係」において県よ

りもやや低い結果であった。

設問毎に見ると、国語科では、「目的に応じて、理由をあげて自分の考えを書く」「漢字の書き」「ことわざの意味と使い方」、算数科では、「億を超える数の十進位取り記数法」「面積についての量感」「伴って変わる2つの数量」などに課題が見られる。また、無答率が県に対して高い傾向にあり、日頃の学習の中で自分の考えが持てるよう指導を積み重ねていく必要がある。

2 意識調査の結果から

第6学年の意識調査の結果では、「自分にはよいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」の項目が県平均に比べ高い傾向にあった。友達や先生から承認され、自己肯定感が高いことが学習への意欲にもつながっているものと思われる。また、「毎日、朝食を食べる」「毎日同じくらいの時間に寝る、起きる」の項目も高く、規則正しい生活ができているものと思われる。

県平均に比べやや低い傾向にあった項目は、「家で自分で計画を立てて勉強をする」「授業の予習・復習をする」「平日の1日あたりの勉強時間」であった。「学校の宿題をする」の項目は高いものの、宿題のみで終わり、予習・復習や自主学习などの自分で考えて学習する時間がやや少ない結果となった。さらに読書の時間もやや少ない状況にあり、家庭学習の方法・内容について課題が見られる。

また、学習の理解は高いものの、「算数の勉強が好き」や「算数の学習を生活の中で活用する」、「理科の学習を生活の中で活用する」「将来、理科や科学技術に関する職業につきたい」など、学習を生活の中に生かしていこうとする意欲・態度が今一步であった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 「西部型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習に取り組ませる。

①「めあて」の提示 ②自力解決 ③話し合い活動（グループや全体）④「まとめ・振り返り」

学習過程のプレートを使いながら「西部型授業」の流れにそって、授業作りを行う。ただし、目的や内容によって時間の配分は工夫をする。

2 自分の考えを持たせるため、いろんな教科の中で書く活動を積極的に取り入れていく。また、書いたことを発表に生かしながらグループや全体の場での協働的な学習を充実させたい。

3 学習と生活の関連を意識させたり、深めさせたりするために、生活場面の中から学習問題を取り上げたり、学習したことを生活に生かしたりする活動（物作りや発展課題）について工夫していきたい。

また、総合的な学習の中で、いろいろな教科で培った知識・技能を意図的、計画的に活用させる。調べたことをまとめる際には要約をしたり、グラフや図表を活用させたりして教科の有用感を高めさせたい。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 パワーアップ課題

活用力育成のために、発展的な問題や活用問題を週末の家庭学習の課題とする。（4・5・6年）

1回に1問程度を課題とし、しっかり考えさせる。その後、解き方や答え方について丁寧に指導する。

2 若木小学校作成の「家庭学習の手引」について職員で見直し、学年に応じた家庭学習の時間設定や課題の内容についての共通理解を図る。また、自主学习のやり方のヒントを示し、週に1回程度自主学习にも取り組ませたい。

3 家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の1つとして位置づける。月に1回の「家読」の時間の充実を図り、家庭と連携し親子での読書活動に取り組みたい。